

第 1 号議案 令和 5 年度 (2023 年度) 事業報告について

【法人本部】

1. 本部事業報告

2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症の感染症分類が 5 類に移行しましたが、感染対策については徐々に緩和していく運営となりました。

職員確保については、コロナ以降 WEB を中心とした採用活動となりましたが、対面説明会も復活させました。新卒採用が低調のため、中途採用者への対応も丁寧に行いました。

2020 年度からははじめた「SUT (Skill Up Target) 制度」という当会独自の研修制度が 4 年目となり、職員一人ひとりの成長を見守っていく仕組みが定着しつつあります。2024 年度はさらにブラッシュアップを図り、質の高いサービスが提供できる人材を育ててまいります。

大阪府がおこなう中小事業者を対象とした脱炭素化及び電気料金の削減による経営力強化の取り組みを促進することを目的とした「令和 5 年度中小企業 LED 照明導入促進補助金」を活用し、本館の補助対象となる照明器具の LED 導入を進めました。

【施設部】

2. 特別養護老人ホーム白寿苑

2023 年度の特別養護老人ホーム白寿苑におきましては、入所者平均年齢は 87.8 歳、平均要介護度は 3.9、平均在所期間は 44.7 カ月であります。

医療機関への入院者実人数は 45 名。死亡退所者数は 33 名、医療依存度が高く療養上の理由から帰苑困難となった退所者は 6 名となりました。

特養として注力し取り組んでいる看取り介護については、死亡退所者全体の 72.7%となる 24 名を施設内で看取らせていただきました。

本年元日に発生した能登半島地震で被災し、輪島市内の福祉避難所に避難されていた被災者 1 名を 2 月に緊急受入れを行いました。

今後も災害による避難者や虐待保護の措置入所ケース、いつそう高まる看取り介護、認知症ケアなど、より多様化していくニーズに添えていくためには、介護サービスにおける生産性向上が必要であり、各職種のスタッフ一人ひとりのスキルを高める取組み、業務内容の見直しを行うことで質の高い介護サービス

又を提供していくこととなります。入所者、ご家族からの安心と信頼いただけるサービスを提供できるよう努めてまいります。

感染症予防対策を徹底してまいりましたが、本年1月にはインフルエンザによるクラスターが発生し、入所者22名(内シヨートスイイ利用者1名を含む)、職員7名が罹患しました。感染拡大防止対策の効果もあつてか、発生フロアは限定されており、また幸いにも全員が重症化することなく軽快しております。今後も感染症対策を十分に徹底し、新規入所を一層進め、稼働向上に努めてまいります。

3. 短期入所生活介護

2023年5月より新型コロナウイルス感染症の感染症分類が5類に移行となり、利用抑制が緩和され年度当初の稼働は低調でしたが徐々に復調しています。前年度の月平均稼働率は55%に対して63.3%まで回復。最高は11月度の78.7%となりました。

利用者全体に占める中重度利用者(要介護3以上)の割合は、前年度78%に対して80.6%となっております。

大阪市認知症等高齢者緊急シヨートスイイ事業居室確保業務を引き続き受託しており、前年度同様に8名、延べ135日間の緊急受入れを行いました。

本年1月に特別養護老人ホームにおいてインフルエンザによるクラスターが発生。一時、利用フロアを制限する対応を行いました。今後も感染症対策には十分に注意し、新規利用者及び定期的利用者の確保と緊急利用ケースへの柔軟な受入れを行い、稼働向上に努めてまいります。

4. ケアハウス白寿苑

2024年4月1日現在、入居者数29名です。平均年齢は89.7歳、要介護認定を受けている入居者は23名です(その内、要支援…6名、要介護1…8名、要介護2…7名、要介護4…2名です)。

① 行事、サークル活動については、新型コロナウイルス感染症予防のため、これまでのものは全て中止しました。飲食を伴うイベントの開催ができません。あらたに、大阪市の移動図書館(まちかど号)を数名の入居者と毎月利用しています。コーヒーマルソービスのみ毎月実施しました。

② 個別の援助計画を作成し、実施しています。

③ 入居希望者の面談・見学・体験入所は、感染予防しながら行いました。

5. 白寿会診療所

(1) 感染対策

2023年度新型コロナウイルス感染症については、これまでの感染拡大とは違ってきました。利用者も職員も重症化はしませんでした。また陽性確認後すぐに医師の指示により「ラゲザリオ」を投与できたことも、重症化を防ぐことにつながったのでは、と思います。今後も医療との連携を継続していきます。しかし、感染拡大は、あつという間であるという感覚です。症状がなく、検査すれば陽性といった利用者も多く、未然に防ぐには限界を感じました。また症状がほとんどない多くの利用者の隔離対応を、これまで通り続けることは、職員の疲弊につながりました。今後の体制づくりにも重要なことなので、保健センターにも状況を説明し、今後の感染対策を早期に検討してほしい旨を伝えています。

(2) 多職種連携

栄養士と看護師の協力体制にて、食事時の姿勢の見直しおよび安全な食事介助について、マニュアルを見直しています。

実践につながるように、具体的なマニュアル作成を続けていきたいと思えます。

【在宅部】

在宅部では、新型コロナウイルス感染症対策の基本的な対応を維持しつつ、事業内容を見直し、状況に合わせて活動いたしました。サービス事業課では、行事や外出の充実を図ることで、生活の質の向上を目指し、相談支援課においては、地域行事、会議参加の機会を増やし、地域の方々との新たなつながりを、住民の皆様とともに構築していきました。また、地域の交流の場である、みんなの居場所の事業も継続しており、施設利用者の方が外出の機会が増える、地域住民の方が新たな出会いが得られた、などの効果がでております。

事業収益としては、職員の不足により減収となる事業もありましたが、在宅部全体としては、前年度収益を維持しております。

介護保険制度改正への対応にて、各事業所における加算取得にて体制を整備し、職員の質の向上のために研修体系の見直しや、利用者のニーズへ柔軟に対応できるように生産性向上に努めています。

ハード面・ソフト面の課題改善をしつつ、地域の皆様方の期待と信頼に応える在宅部としての役割を果たしてまいります。

●介護サービス事業課

6. デイサービスセンター白寿苑

◆一般デイサービス

2023年度も冬季を中心に新型コロナウイルスの感染者が出ました。その結果、利用控えや利用中の体調不良で早引き（利用時間減）が増加し、前年度収益の99.4%となりました。取り組みの内容としては、機能訓練を目的とした外出や、手作りおやつ等の「調理教室」を再開させることで、利用者からご満足いただける評価を受けることができました。さらに、コロナ禍前のような座席位置に戻していき、利用者同士の横のつながりができるように致しました。

次年度は介護保険改正で新たに「ADL維持加算」を取得していきます。その為、利用者情報の取得に力を入れていきたいと考えております。また、現在取得している加算に関しては、定期的な研修の機会を設けることになりましたので、非常勤職員にも参加する機会を作り、現場にアドバイザーできるようなシステムの構築を行ってまいります。

介護サービス費請求額（利用者負担額除く）

	通所介護	介護予防型 通所サービス	短時間型 通所サービス
2021年度	¥56,798,368	¥1,642,889	¥2,662
2022年度	¥60,884,677	¥1,836,824	¥0
2023年度	¥59,767,410	¥2,591,088	¥0
前年度差額	- ¥1,117,267	+ ¥754,264	¥0
合計			- ¥363,003

◆デイサービスほかほか

デイサービスと同様に利用控えや利用中の体調不良で早引き（利用時間減）が増加し、前年度収益の99.8%と減収になりました。取り組みでは「寺子屋教室」や「壁面作成サークル」を継続的に行いました。そして、「料理教室」ではおやつ作りを中心に再開させ、利用者の「手続き記憶」の部分を刺激することができました。地域運営推進会議ですが、次年度からは4月、10月を中心に開催し地域の方々のご意見をいただければと思っています。2024年度は介護保険改正で新たに「ADL維持加算」を取得してまいります。職員に関しては、認知症ケアを中心とした研修会を開催し、ケアの力を向上させてまいります。

介護サービス費請求額（利用者負担額除く）

	認知症対応型通所介護	介護予防認知症対応型 通所介護
2021年度	¥30,139,262	¥55,989

2022年度	¥31,204,099	¥0
2023年度	¥31,166,726	¥0
前年度差額	-¥37,373	¥0
合計		-¥37,373

7. ヘルパーテーション白寿苑

2023年度は全体でみるケース数や訪問回数は昨年より減少しておりますが、職員一人当たりの稼働率は安定しております。利用者の生活習慣や価値観を尊重し、それぞれの困りごとに寄り添って問題を一つひとつ解きほぐしていく支援を心掛けました。引きこもりケースで多職種と連携し、最悪の事態を回避できました。利用者とヘルパーの信頼関係の構築を心掛け、利用者の健康状態を観察して異常の早期発見に努めました。

・介護保険サービス(逝去1名、入所4名、新規2件、自費サービス新規2件)

月平均 利用者数 17名 訪問回数 125回 訪問時間 143時間

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
0%	12%	35%	24%	29%	0%	0%

・障がい者総合支援法サービス(逝去1名、入所2名、同性介護の為の移行1名、介護保険への移行1名、新規1件)

月平均 利用者数 12名 訪問回数 104回 訪問時間 186時間

障がい別	身体障がい	知的障がい	精神障がい	重度障がい	視覚障がい
割合	22%	13%	43%	14%	8%

支援内容	身体介護	家事援助	通院介助 身体伴う	通院介助 身体伴わない	同行援護	移動支援	重度訪問
割合	10%	29%	15%	1%	20%	16%	9%

今後も丁寧なサービスを心掛け、本人のニーズ、家族のニーズを合わせた個々の支援方法を各関係機関と相談し、連携して行ってまいります。

職員間で日常的に情報交換を行い、介護技術の向上に努めます。

8. 有料老人ホームつむぎ苑

2023年度のつむぎ苑の実績といたしましては、平均稼働率は83%で前年度の86.6%と比較すると3.6%減という結果となりました。収益の総額では前年度と比較し約250万円の増収となり、その要因としては平均要介護度の上昇による介護サービス費が収益増となった結果といえます。ご利用者の平均年齢が94歳と高齢化が進み、長く続いたコロナ禍がご利用者のADLの低下を招い

た結果が平均要介護度の上昇につながったと考えられます。

一方、介護サービス量の増加が深刻となり、マンパワー不足から、ご利用者に質の高いサービスが提供できないといった課題が顕在化。介護職の“離職”という空気感も生じ、個々の職員に対するメンタルヘルスマネジメントに時間を割く必要性が増しました。

コロナ禍の制限が緩和され、ご利用者も落ち着きのある日常を取り戻しました。イベントや行事などの非日常的なサービスの提供の再開は、ご利用者の満足だけではなく職員のモチベーション等のメンタルヘルスにもつながります。2023年度に引き続き、2024年度もこれらの課題に真摯に向き合い、ご利用者に満足していただける施設づくりに努めてまいります。

請求額	総額		介護サービス費	自費サービス
	2022年度	2023年度		
	¥116,957,164	¥119,450,679	¥61,746,690	¥97,526
			¥66,728,072	¥110,110

●相談支援課

9. 玉出地域包括支援センター

◆地域支援事業

【玉出地域包括支援センター実績】

総合相談件数 6692件（昨年 9283件）、権利擁護虐待対応実件数 1件
介護支援専門員支援からの相談 1095件（昨年 1517件）

総合相談の延べ件数は大幅に減少しましたが、コロナウイルス感染症がやや収束に向かい、介護予防、社会交流の場所もコロナ前と同様に活動が再開されたことから、地域の高齢者全体に活気が戻っていることが背景にあると考えられます。ただその一方で、相談実人員は779件。前年度878件から減少はしているものの、対応や支援の必要な事例で、関わりが長期化している点は変わっていません。

地域活動については、南津守地区のネットワーク委員長、玉出地区の元民生委員長に協力いただき、それぞれの地域で新たな百歳体操の場を創設することができました。

【認知症強化型地域包括支援センター実績】

区内地域包括支援センター地域ケア会議後方支援・・・6件
認知症推進代表者会議、実務者会議・・・合計 10回
認知症対応力向上研修 1回

認知症啓発イベントは、講演会や体験型の企画（百歳体操、ポッチャEスポーツ）を交えて、昨年を大きく上回る参加者（約 200 名）が集まりました。

また、認知症ケアパスは西成区内のなわ元気塾（いきいき元気教室）の「認知症予防」をテーマとした講義で活用し、認知症の初期段階から地域で繋がりを持つて関わることの大切さを広報していきました。

◆介護予防支援事業

介護予防サービスは、利用者総数 5819 件（昨年度 6044 件）、地域包括支援センター延べ実績 395 件（昨年度 489 件）一部委託 5424 件（昨年 5555 件）で対応しています。

10. 認知症初期集中支援推進事業（にしなりオレンジチーム）

（1）相談実績数

2023 年度の個別支援件数 39 件、一方相談対応数は 110 件ありました。これらを含めた対応総数は 149 件となり、前年度の 140 件を上回りました。

個別支援件数を地区別で見ますと、千本地区 6 件、次いで玉出・萩之茶屋の各地区が 5 件となっています。月平均は 3.25 件で、昨年度とほぼ変わらない状況です。

相談対応数は毎月概ね 10 件前後ですが、個別支援に移行した事例もありました。相談経路では包括と家族がほぼ同数になっています。例年最も多い包括と肩を並べるに至っています。

（2）広報啓発活動

アフターコロナで地域活動等へ出向く機会が増えたこともあり、前年度を上回る 73 回の広報を行いました。

ホームページの定期更新、法人 SNS での情報発信を継続していますが、インターネット検索をした家族からの相談や問い合わせが増加していることは前述の通りです。

前年度作成した認知症ケアパスの配布・配架に加え、強化型包括にて 5 地域で実施した認知症予防講座の題材としても活用されました。

（3）ネットワーク構築

『ほっと！ネット西成』連絡会の事務局として、実務者級連絡会議（兼当子一ム関係者会議）をはじめ、オンラインを使った認知症対応力向上研修を実施。区民向け啓発イベントでは、各種体験コーナーと講演会を融合した内容を企画し、5 年ぶりに区民センターのホールにて開催しました。

個別支援や地域ケア会議では、認知症に関する専門的なアセスメント、医師

の説明に基づいた支援の方向性等に関して提案や助言を行いました。

1.1. ライフサポートセンター白寿苑

特定事業所として適切なケアマネジメント業務と適正な運営を継続しています。ケアマネジャー質向上においても、それぞれ個人目標を設定し研修等に参加しています。事業所としても日々のケアマネジメントを疎かにせず運営基準違反や減算にならないように運営指導は継続していきます。

2023年度も「みんなの居場所」をお借りして地域のケアマネジャーと小単位で介護保険、制度、事例検討会、地域の情報等共有をしながら勉強会を開催しています。

特定事業所における加算要件に「他法人が運営する居宅介護支援事業所との研修」が含まれており、地域のケアマネジャーとの勉強会や交流の機会を持つことができています。他の事業所からも好評です。次年度も継続していきます。

事業所の運営について、新規利用者獲得については要介護者20件、予防5件です。地域包括支援センター、病院、地域利用者からの相談件数が主です。

収益については22,214,886円(2022年度22,068,885)、対前年度比100.7%となっております。2022年度より微増していますが、短期間で終了をするケースも多く、長く関わるケースは減っています。

引き続き他機関との連携により要介護の新規相談を受けつつ、今年度(期間未定)は介護予防支援事業所の指定を受けることで収益につながるかどうかを検討していきたいと思えます。

1.2. 相談支援事業はなめ

(1) 事業内容について

2023年度も相談員1名体制(兼務)で稼働しました。「精神障がい者支援体制加算」は継続して算定しています。また、強度行動障害支援者養成研修を修了し「行動障害支援体制加算」を2024年度より算定できるよう申請を行っています。

高齢者サービスとの共生を目指す取り組みとしては、引き続き「あいサポート研修」の周知を行っています。また、介護保険へのスムーズな移行のため居宅介護支援事業所等と連携しています。

(2) 実績について

利用登録者数は、月平均41.4名です。請求件数は月平均32.8名と前年度より増加していますが、目標の35件には達しませんでした。「利用者の状況確認や支援内容の調整等を手厚く実施したことを評価する為の加算」は49件です。入退院件数が少なかつたため全体の件数が下がっています。収益は前年度の

103.7%となっております。

廃止件数は2件で介護保険へ移行してまいります。新規登録件数は、1件です。利用者本人からの依頼は複数件ありましたが、サービス利用につながりませんでした。相談支援事業所が急激に増えており新規ケース獲得には、地域関係機関との連携強化が必要となります。引き続き会議や行事に参加し地域関係機関との連携強化を図ってまいります。

【白寿会研修センター】

1.3. 喀痰吸引等研修事業

当事業は2013年度より開始し、近隣の社会福祉法人ジー・ケー社会貢献会、特別養護老人ホーム山愛の三者が協働して実施しております。

2023年度も、2022年度から始めた「オンデマンド配信＋スクーリング方式」で実施しました。基本研修は2023年6月～11月に実施。20名が参加しました。「現場職員による現場職員のための喀痰吸引等研修」として、ゆとりのある期間設定を行い、パソコン、スマートフォン、タブレットがあれば「いつでも、どこでも学べる」と好評でした。スクーリングについても、指導看護師陣の丁寧な指導により大変充実したものになりました。

なお、これまで13回の参加実績は、基本研修参加者が計259名、そのうち実地研修も含めた全課程修了者が220名、基本研修修了後実地研修受講中が25名(2024年3月末現在)、また基本研修免除研修への申込は5名、修了者も5名となっております。